

情報科学専門学校

令和元年度学校関係者評価報告書

1. 学校関係者評価会実施要領

日時	令和元年 12 月 18 日 (水) 16 : 00 ~ 17 : 30	
場所	情報科学専門学校 7 階 702 教室	
参加者	学校関係者評価委員 外部委員	小川名 剛彦 (神奈川県情報サービス産業協会 常務理事)
		長谷川 長一 (株式会社ラック プロフェッショナル・フェロー)
		松岡 秀和 (日経統合システム 執行役員 ソリューション事業本部長)
		長 夏美 (情報科学専門学校 保護者) <small>※欠席</small>
	学校関係者評価委員 内部委員	川上 隆 (教務部長 国際交流)
		伊藤 泰宏 (業務リーダー 統括担当: 学校運営・教育の内部質保証システム)
		那須 宗夫 (業務リーダー 1 学年担当: 学生支援・社会貢献・地域貢献)
		山上 紀彦 (業務リーダー 2 学年担当: 学生の受け入れ募集)
		小倉 正己 (業務リーダー 3・4 学年担当: 学習成果)
		武藤 幸一 (業務リーダー システム担当: 教育活動)
	山田 仁子 (業務リーダー ビジネス科担当: 学習成果)	
	濱口 和也 (記録係 学生支援/教育環境)	
資料	・ 令和元年度学校関係者評価会 実施要領	

2. 自己点検評価結果報告および各項目に対する学校関係者評価

2-1. 教育理念・目標

学校が設定する評価項目	自己点検評価の概要	学校関係者からの評価
<ul style="list-style-type: none"> ・理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか） ・学校の将来構想を描くために、業界の動向やニーズ調査しているか ・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか ・学校における職業教育の特色は明確になっているか ・理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の教育理念は開学以来、明確に示されているが、必ずしも専門分野の特性が明確になっているわけではない ・生徒に対しては入学前にパンフレットを使用して説明しているが、入学後に全体周知する機会は設けられていない ・入学後の2週間の導入教育「基礎ゼミナール」の授業内で、上記について周知・徹底を図る ・保護者宛発送文書に上記ガイダンスの配布資料を同封する ・平成25年度より業界団体の有識者および学科ごとの専門分野に対応した外部企業の有識者からなる「教育課程編成委員会」を年2回定期開催。これにより業界の動向や企業のニーズに合わせて学科ごとの育成人材像を迅速に見直すことができる体制となっている 	<ul style="list-style-type: none"> ・現状の取り組みについて特段の問題は無い。

2-2. 学校運営

学校が設定する評価項目	自己点検評価の概要	学校関係者からの評価
<ul style="list-style-type: none"> ・専修学校設置基準及び職業実践専門課程認定要件に沿った適切な運営がなされているか ・運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか ・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか ・目的等に沿った事業計画が策定されているか ・事業計画に沿った運営方針が策定されているか ・人事、給与に関する制度は整備されているか ・教職員と非常勤講師等との定期的な情報共有を図っているか ・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか ・教育活動に関する情報公開が適切になされているか ・情報システム化等による業務の効率化が図られているか ・教育方針や目標を含むマネジメントシステムの継続的な適合性、妥当性、有効性を確保するためにマネジメントレビューを実施しているか ・学生や保護者、その他利害関係者からの苦情・要請等への対応など、不適合を特定し、対処する手順（予防処置及び是正処置）を確立しているか ・利害関係者が不満を抱いている場合や、利害関係者と学校側とで意見の相違がある場合の相談受付方法を案内しているか 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報システムを業務に有効に活用できている。ネット出願を正式導入。LMS（Learning Management System）のアカウントを全学生に付与 ・LMS 対応科目を順次開発中。H30 年度は 3 科目を運用。LMS を活用することで定常業務の業務量縮減・生産性の向上を図る ・蓄積した教務データを分析し、業務改善に活かす基盤を整備中 	<ul style="list-style-type: none"> ・e ラーニングを活用して授業の活性化を図っているのは評価できる。取得したデータに対して、ラーニングアナリティクス（学習履歴の分析）を行うことで、新しい発見を得ることができる ・学習だけすればよい LMS と人間性の育成は世の中的には融和しにくい、専門性を育てる学校としては良い取り組みだと思う。LMS で生徒が先生とコミュニケーションを取りたいときに取れるような、TV 会議や Web カメラなどの利用があってもいいのではないか

2-3. 教育活動

学校が設定する評価項目	自己点検評価の概要	学校関係者からの評価
<ul style="list-style-type: none"> ・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか ・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか ・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか ・情報・IT分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか ・資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか ・学科等カリキュラムは体系的に編成されているか ・Can-Doを意識した各科目の授業シラバスが作成されているか ・情報・IT分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか ・シラバスあるいは講義要項などが事前に学生に配布されているか ・実習室等の学校施設、設備の利用割り当て（スケジュール管理）が明確になっているか ・学生によるアンケートなどで、適切に授業評価を実施しているか ・成績評価・単位認定の基準は明確になっているか ・職業教育に関する外部関係者からの評価を取り入れているか ・授業評価の実施・評価体制はあるか 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程編成委員会にて、カリキュラムが業界のニーズ等にマッチしているかのチェックを実施している ・教員のスキルは採用時に確認しているほか、取得資格等も随時把握している。取得資格だけでは評価できないスキルについては教員アンケートにて状況を確認し、他者の授業見学等も励行している ・産官学連携については、案件の取得や実施、レビューについても積極的に行われている。連携案件に携わる学生を増やしていくことが今後の課題 ・世界的に広く使われている MathWorks 社の MATTAB（数値計算・開発・シミュレーションプラットフォーム）の導入を検討中 	<ul style="list-style-type: none"> ・学生数が増え、多様化する中で、教員が一人一人個別の対応をする教え方では追いつかない。学生同士が互いに教えあい、高めあう環境が必要である。学生同士では悪い面も見習ってしまう懸念はあるが、模範となる学生が何人か継続的に生まれてくると、それを目標に頑張る学生が生まれてくる

<ul style="list-style-type: none">・閲覧権限の設定がなされ、個人情報保護への配慮がされているか・教育の質向上に役立つ改善点を明確にするために、教育を提供している状況（学習環境等）を確認・検証しているか・人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか・教職員のコンピテンシーを職務記述書と関連付けながら評価し、それらの評価結果を記録しているか・情報・IT 分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取り組みが行われているか・職員の能力開発のための研修等が行われているか（研修等の効果の評価し、文書で記録しているか）・情報・IT 分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか		
---	--	--

2-4. 学修成果

学校が設定する評価項目	自己点検評価の概要	学校関係者からの評価
<ul style="list-style-type: none"> ・学生の学修成果の評価に際して、育成する人材像に沿った評価項目を定め、明確な基準で実施されているか ・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか ・評価目標ならびに想定される評価範囲を記述できているか ・学生の評価だけでなく、教職員やカリキュラムの評価も含め、評価方法及び手段、スケジュール及び根拠を記述しているか ・成績証明書等、評価結果が社会的通用性を高める形式となっているか ・ニーズ調査結果に基づき目的（到達目標）を設定し、目的に対する評価を結論としてとりまとめた評価報告書を作成しているか ・学習サービス（教育・訓練）を受託または委託する場合、目的、要望、最終目標及び要件を明確にしているか ・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか 	<ul style="list-style-type: none"> ・ITスキル標準（ITSS）や業界ニーズを基に人材像を構築。H29年度から3・4年制学科については、学年ごとの明確な到達目標を提示し、それを評価する仕組みを取り入れている ・知識ではなく、産官学研究、コンテストへの出展などで主体的に学んでいく姿勢をつくっている ・単年ではカタチにできにくいものを、複数年継続していくような継続案件が増えてきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が作りたいものをつくるということばかりではなく、お客様が何を作りたいのかをきちんとキャッチアップしてカタチにできる技術者が必要 ・継続案件は良い取り組み。これからも取り組んでほしい

2-5. 学生支援

学校が設定する評価項目	自己点検評価の概要	学校関係者からの評価
<ul style="list-style-type: none"> ・進路・就職に関する支援体制は整備されているか ・学生相談に関する体制は整備されているか ・保護者と適切に連携しているか ・社会人学生のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか ・卒業生への支援体制はあるか ・図書室・図書コーナー等、ホットライン、カウンセリングサービス、コンピュータの利用、メンタリングなどの学習サポートについて案内しているか ・学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか ・学生の健康管理を担う組織体制はあるか ・課外活動に対する支援体制は整備されているか ・学生の生活環境への支援は行われているか ・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育、職業教育の取り組みが行われているか 	<ul style="list-style-type: none"> ・来校した卒業生に対する支援は随時行っているが、組織的な取り組みには至っていない ・書面で行っていた保護者宛発送文書をスマートフォンやPCで確認ができる仕組みを導入 ・年に一度卒業生交流会を実施。卒業生の活躍を在校生が知る機会としている。また、卒業生から直接学校に対する意見をヒアリングすることで、カリキュラム検討やキャリア教育に取り入れている ・就職指導は、卒業年次の半年前から継続して実施。メイク講座やスーツセミナー、会社見学会、学内での企業説明会など定期的に行っている ・企業の人事担当者によるパネルディスカッションを実施しているが、希望者を募ると参加者が少なくなってしまう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現状の取り組みについて特段の問題は無い

2-6. 教育環境

学校が設定する評価項目	自己点検評価の概要	学校関係者からの評価
<ul style="list-style-type: none"> ・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか ・学校施設・備品等が定期的に管理・点検されているか。 ・教職員に対して、学習指導のための教育訓練や安全管理のための避難訓練を実施しているか ・防災に対する体制は整備されているか ・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか 	<ul style="list-style-type: none"> ・備品は定期的に点検・更新を行っている ・各教室に「急病発生時の対応方法」を掲示。非常勤にも緊急時の対応が一樣にできるよう工夫をしている ・県警 0B による実践的な防犯訓練を毎年実施。防犯マニュアルの整備が今後の課題 	<ul style="list-style-type: none"> ・現状の取り組みについて特段の問題は無い

2-7. 学生の受入れ募集

学校が設定する評価項目	自己点検評価の概要	学校関係者からの評価
<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生募集活動は、適正に行われているか（例えば、入学願書などの契約書を取り交わし、それらの文書を適切に管理しているか） ・ 履歴書（学歴、所有資格など）を適切に入手し、適切な管理を行っているか ・ 学校案内等には選抜方法など、入学に必要なスキル、資格、職業経験などの、前提となる要件が明示されているか ・ 学校案内等に、学費、受験料、学習教材の購入費等が明示されているか ・ 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか ・ 評価手段及びその基準、修了時に発行される証明書等について説明しているか ・ 学力の不足や障がいに関する特別なニーズを特定しているか ・ 教育の履行、人的・物的資源の提供、個人情報取り扱い、安全管理など、学校側の義務と責任を学生と保護者に案内しているか ・ 学納金は妥当なものとなっているか 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今まで作文と面談としていた A0 入試の選抜方法に新たに体験型課題を導入。入学後の授業で行うアイデアソンを事前体験でき、サポーターの先輩学生から直接学校の様子を聞くこともでき参加者からは好評を得ている ・ A 特待生入試にプログラマ適性を導入。非認知能力を図る手段とし、論理的思考力やプログラミングスキルの高い学生の育成に繋げていきたい ・ 入学前教育の一環として、自分のアイデアを形にするモックアップ制作を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 入学選考の中で、入学者の主体性・意思を見ているのは良い

2-8. 教育の内部質保証システム

学校が設定する評価項目	自己点検評価の概要	学校関係者からの評価
<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか ・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか ・文書管理規程、文書管理リスト（ファイル管理簿）ならびに決裁の流れを含む決裁規程（文書処理規程）が文書化されているか ・自己点検・評価や内部監査の実施と問題点の改善に努めているか ・監査や評価基準の知識を有する適任者により適切に監査され、当該課程・部署の責任者に監査結果を報告しているか ・内部監査での指摘事項として、改善すべき点を明確にしているか ・内部監査の結果を受けて取られる処置が、適切な時期及び適切な方法で実施されているか ・自己点検・評価結果を公開しているか 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の視察や相互評価を行う制度はあるが、定期化されていない。また、教材やシラバスに対する相互評価体制は改善の余地あり ・内部監査の進め方はまだ不慣れな点があり、自己点検評価以上の問題点の洗い出しが出来ていない 	<ul style="list-style-type: none"> ・現状の取り組みについて特段の問題は無い

2-9. 財務

学校が設定する評価項目	自己点検評価の概要	学校関係者からの評価
<ul style="list-style-type: none"> ・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっている ・財務について会計監査が適正に行われているか ・財務情報公開の体制整備はできているか ・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか 	<ul style="list-style-type: none"> ・現状財務基盤は安定しており、継続的な学校運営に問題ない状況である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現状の取り組みについて特段の問題は無い

2-10. 社会貢献・地域貢献

学校が設定する評価項目	自己点検評価の概要	学校関係者からの評価
<ul style="list-style-type: none"> ・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか ・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか ・地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか 	<ul style="list-style-type: none"> ・現状の地域貢献は主に講座、コンテストの実施および学生のボランティア活動への参加である。地域社会に対する上記以外の方法での貢献形態が考えられるかどうか、継続してニーズの把握に努めたい ・学生だけで行う小学校向けプログラミング教育が順調に広まっている 	<ul style="list-style-type: none"> ・現状の取り組みについて特段の問題は無い。

2-11. 国際交流

学校が設定する評価項目	自己点検評価の概要	学校関係者からの評価
<ul style="list-style-type: none"> ・留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか ・留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか ・留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか ・学習成果が国内外で評価される取り組みを行っているか 	<ul style="list-style-type: none"> ・従来からのセブ島留学に加えて、事前事後学習への参加や留学後のTOEIC受験、学内での留学に対する普及活動を行うことで学園からの支援を受けることができる新制度を導入 	<ul style="list-style-type: none"> ・海外留学では、プレゼンテーションを叩き込まれ、人間力の向上に役立つ。留学しなくとも人間性の向上に寄与できるようなカリキュラムがあると良い

以上